

## 2010夏 北海道花の山旅③

### とちかちだけ 活火山・十勝岳に登る

晴天の時、美瑛方面から見る十勝岳は、左右の2000メートル級諸峰とそれらを繋ぐ稜線を従え、しかも太い噴煙をたなびかせて堂々たる山容を見せる。

しかしこの日は頂上部分を雲に隠して全貌を現さない。それでも直近では昭和63年に噴火しているだけあって、荒々しい山肌と高く黒々と聳える山稜部分とが、見る者を圧倒して迫ってくる。

以下、この日の「記録」担当だった河島さんの文章をお借りして、この号の主文としたい。(一部割愛)



#### 第3日目 7月28日 十勝岳登山

#### オヤマリンドウ

7:30 [ホテル出発]	7:50 [望岳台から登山開始]
8:30 [第一回目休憩]	8:50 [避難小屋 到着]
9:20 [中間点ぐらい]	10:45 [十勝岳 頂上到着]
11:05 [下山開始]	12:05 [小休憩]
13:45 [望岳台に帰着]	14:00 [駐車場を出発]

本州は高気圧に覆われていましたが北海道は低気圧が通過し、天気には恵まれませんでした。当日は雲が多く、十勝岳は雲海に包まれていました。

登り始めは、なだらかな坂道が続き、だんだんと急な坂になっていきます。なんと現地の高校生たちが体力作りの為に、走って登山していました。男子だけでは無く、女子も走って登っているのですよ！ 我々には、とても真似が出来ない事ですね。

ふもと付近では視界は開けていましたが中間点を過ぎると、まるで雲の中を歩いている感じでした。



噴火で流れ出た溶岩



十勝岳頂上 (撮影：河島)



頂上は厚い雲に包まれて、下界の雄大な風景は全く見えず、視界は10メートルぐらい。雲海の細かい水滴で、体中が濡れて携帯電話の電池も消費してしまいました。カメラは濡れないようにビニールで包んだので大丈夫。頂上付近からの下山は、かなり急な下り坂でしたが、みなさんは健脚ですので無事、13:45に望岳台登山口に帰着し登山を終了しました。

(記録 河島)

イワブクロ (ゴマノハグサ科)

右 キタキツネ



## 二上山だより

二上山で今見ることのできる花と虫



コガンピ (ジンチョウゲ科)

ヤマハギ (マメ科ハギ属)

ヘクソカズラ (アカネ科)

「萩」を漢和辞典で引くと「シュウ、シュ」の音で①かわらよもぎ、②ひさぎ、③国すなわち日本では「はぎ」でマメ科のハギと説明している。すなわち同じ萩の字でも中国と日本では異なる植物の名前なのであり、この点では「椿」と同様の扱いを受けている。日本人にとってハギは秋を象徴する代表的花だったのである。昔中国から「植物図鑑」を持ち帰り、日本の植物に漢字を充てていった人(々)のミスなのだろうか。いや日本人の風流を重んじた意図的作業ではなかったらうか、と思ったりする。



写真左から

タマムシ

ゴマダラチョウ

ウ

スミナガシ

(以上 124号)